

1. 日本選手権の開催

日本選手権を開催しようとするものは、原則として日本選手権開催予定年の前々年の12月までに必要書類（開催要項および地図）を揃えて、その旨をJHFに提出しなければならない。その内容の検討はJHFパラグライダー競技委員会で行い、開催の決定は原則として開催予定年の前年の3月までの理事会において行うものとする。

2. 参加資格

日本選手権の参加資格は以下の4項目全てを満たすものとする。

- a) 日本国籍を有するもの（オープン参加の外国人は除く）。
- b) 有効なJHFフライヤー登録をしているもの。
- c) シード選手またはJHF正会員の連盟から推薦されたその連盟の代表選手。
- d) JHF正会員の連盟に所属しているもの。

オープン参加の外国人は日本国内で有効な第三者賠償責任保険に加入（保険金額はJHFフライヤー登録と同額以上とする）しており、なおかつ適切なフライト技術を身につけているものに限る。

3. 使用機体

使用機体はJHSC（JHTC）登録機とする。ただし、大会がカテゴリー2として開催される場合は次の規則どちらかを満たすものとする。

- a) 改造機及びプロト機はFAI S7B Par.2.13によるか、あるいはPWCルール Par.2.7による証明書が必要。
- b) 製品タイプ(JHSC,JHTC,CEN,DHV,SHV,FFVL,AFNOR,ACPULに登録されているもの)。

4. 大会の種類

大会はジャパンリーグ対象大会とする。主催者はFAIカテゴリー2大会とすることが望ましい。ゼッケンは日本選手権独自のものが採用される場合がある。

5. シード選手

シード選手は前年度日本選手権10位までおよび前年度アキュラシージャパンリーグランキング10位までのもの（重複があっても繰り下げはしない）とする。

6. 参加選手選抜方法

総予定エントリー人数からシード選手（前5項による）、正会員の資格を持った各都道府県1名、学生連盟枠3名、開催地元枠（正会員の資格を持った都道府県の場合に限り最大2名。ただし少なくとも1名は女子選手とする）および女子優先枠（総予定エントリー人数の10%。ただしシード選手もこの枠に含めるものとし、日本選手権開催前年度のアキュラシージャパンリーグランキング上位から選出する）を差し引いた人数を日本選手権開催前年度のアキュラシージャパンリーグランキング上位から選出する。

7. 大会の準備

プレ大会とも言うべき日本選手権と同規模の大会を予め開催し、経験を積んでおくこと。

8. 陪審員

大会開始前に1名以上の公式審判員からなる陪審員を設置すること。陪審員は抗議があった場合はこれを審議し、認否の決定を下す。この陪審員に関わる費用はJHFが負担するものとする。

9. 書類の提出

アキュラシージャパンリーグ大会の公認申請に必要な書類を日本選手権開催の三ヶ月前までに JHF パラグライダー競技委員会へ提出すること。

10. 補欠募集

主催者は予定エントリー人数に達するまで補欠募集をすることが出来る。その方法は前年度アキュラシージャパンリーグランキング上位者からとする。

11. 成立条件

日本選手権が成立するためには、開催日程最終日（予備日を含む）まで競技を行った上で最低2本のラウンドが成立することが必要である。

12. 女子表彰

実際の女子参加人数が5名以上でなおかつ参加選手総数の10%以上であった場合、女子の1位を女子日本選手権者とする。